

研究タイトル：

ウェールズ語の統語



氏名：	平田隆一郎 /HIRATA Ryuichiro	E-mail：	hirata@gen.niihama-nct.ac.jp
-----	-------------------------	---------	------------------------------

職名：	講師	学位：	博士(言語学)
-----	----	-----	---------

所属学会・協会：	なし
----------	----

キーワード：	ウェールズ語、統語理論、バイリンガリズム
--------	----------------------

技術相談 提供可能技術：	<ul style="list-style-type: none"> ・言語変化 ・言語接触、多言語併用 ・言語学一般に関すること
-----------------	--

研究内容： ウェールズ語における前置詞残留の出現

1. ウェールズ語の前置詞残留

近年、これまでウェールズ語で許されなかった前置詞残留 (preposition stranding) が口語で観察されるようになった。

・ 文語ウェールズ語

Am beth wnest ti siarad?

‘About what did you talk?’

前置詞と WH 語が随伴 (pied-piping) される。

→ 前置詞残留は認められない。

・ 口語ウェールズ語

Beth wnest ti siarad am?

‘What did you talk about?’

前置詞のみが文末に残ることができる。

→ 前置詞残留が観察される。

2. 言語獲得をもとにした言語変化のモデル

● Abductive change (Anderson 1973)

子どもは脳に内在化された文法を親の世代の出力 (生成された文) を通じて獲得する。

● 言語変化のメカニズム (Hale 1998)

言語変化とは Grammar 1 (親の世代の文法) と Grammar 2 (子の世代の文法) の差異である。

● Regress Problem (Roberts 2007)

言語変化が起きる場合、Grammar 1 から予期せぬ Output 1 (親の世代の出力) を生み出さなければならない。

→ でもどうやって？ 変化を引き起こすものは何か？

3. 言語接触による言語変化

● Lucas (2009) の主張

言語接触による言語変化の引き金は言語能力 (competence) ではなく、運用 (performance) のレベルで説明されるべきだと主張する。

● Bilingual Mode (Grosjean 2001)

多言語使用者 (bilinguals) は社会言語学的要因をもとにどの言語の情報がどれくらい必要かを決める。

使用状況によっては直接使用していない言語も脳内活性化される。

4. なぜ口語ウェールズ語に前置詞残留が現れたのか？

● 社会言語学的状況

ウェールズ語話者は英語とのバイリンガルであり、多くの話者がインフォーマルな場面ではコードスイッチング (code-switching: ウェールズ語を話している際に英語の文や節を使用する行為) を頻繁に行う。

● 前置詞残留の出現

ウェールズ語における前置詞残留の出現は前置詞残留を許す英語の統語知識が脳内で活性化された結果であると考えられる。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	